じぶんできめる応援団　第９回

私にもメリットがあるから
やっているんですよ

竹内慎治さん／エミナンス東海　オーナー
板野珠実さん／NPO 法人知多地域権利擁護支援センター

高齢者や精神障害のある人たちが住まいを得づらい現状があります。身寄りがないことや、病気を理由に入居を断られることが少なくないのです。

東海市の聚楽園駅すぐにあるアパート「エミナンス東海」のオーナー、竹内慎治さんは「年齢も性別も国籍も、障害のあるなしも関係ない」とさまざまな方を入居者として受け入れ、さらに普段の暮らしのサポートまできめ細かく行っています。知多地域権利擁護センターの強い味方でもある竹内さんに、職員の板野がお話をうかがいました。

特別なことをしているとは思いません

板野：長く入院していて退院後に住むところがなかったり、集団生活が難しく、老人ホームやグループホームには入れないなどの理由で、被後見人さんの住む家を探すことがあります。けれど、高齢であったり精神障害者だと分かると入居を断られてしまうことが多いのです。

エミナンス東海さんは誰でも断らないで受け入れてくださるのはもちろん、その後も入居者の方のお部屋に行って様子を見ていただいたりと、本当にありがたく感じています。

竹内：エミナンス東海は、もとは主に近隣の大学に通う学生さん向けのアパートでした。初めて一人暮らしをする学生さんのために、部屋に冷蔵庫と洗濯機と電子レンジとエアコンと・・・・・・と、必要最低限の家電を付けてね。具合が悪くなった学生さんを車に乗せて、近くの病院まで連れて行ったりもしていましたから、入居者の方のお世話をすることは、最初から特別なこととは思っていないんですよ。

板野：そんな歴史があったのですね。私たちの関わる被後見人さんたちも、家電付きのお部

屋なので入居時の初期費用が抑えられるという点でも助かっています。
　でも、学生さんたちと高齢者や障害者の方ではずいぶん事情が違うと思います。戸惑われることはないですか。

竹内：実は若い頃、障害のある方の職業訓練施設に関わっていたことがあるんです。働いていた工場から障害者に仕事をお願いしたりね。車いすの方と一緒に 10 日間くらいヨーロッパに旅行したこともありますよ。階段が上がれなくて困っていると、どこからともなく人が集まってきて、みんなで車いすを担いで登ってくれたんです。日本との違いにびっくりしました。そんな経験もあるから、障害のある方と関わることに抵抗がないのかもしれません。
　高齢者の方も、今は見守りサービスがありますからね。週に二回、入居者の方に電話をかけてくれるんです。「体調に変わりはありませんか？」といったガイダンスに従って、入居者の方がボタンを押して応答する、というような。心配だからとか、何かあるかもと思って毎日見に行かなくてもいいんです。応答が無かったり、いつもと回答の内容が違うと連絡が来た時に部屋を訪ねています。

一人暮らしをどう支えるか

板野：エミナンス東海さんにはこれまでに何人もの方を入居させていただいたのですが、中には病気のために他の部屋のポストから郵便物を勝手にどんどん出してしまう、という方もいらっしゃいました。その時も竹内さんは全てのポストに自前で鍵をつけて、注意はされたものの入居者さんに立ち退きを迫ることはされませんでしたよね。

竹内：そんなこともありましたねえ。いろんな人がいるから、たしかに手がかかることもありますわね。（笑）
　障害のある入居者さんどうしが隣同士の部屋になって、喧嘩してしまったこともありました。どうしようかと思ったのですが、結局、使っていた部屋のリフォーム代は要りませんからと言って、違う階に移っていただいたこともあります。

板野：でも、他のアパートで同じようなトラブルを起こしてしまうと、普通はすぐに出て行けと言われてしまいますよね。次のお部屋もすぐには見つからないので、とても困ってしまうんです。

竹内：保証会社さんも厳しいことを言われることがありますからね。少しでも滞納するとす

ぐ退去してください、となったり。でも、退去した後入居者さんはどうするのかと聞いたら「野宿します」なんて言うから、ちょっと待ってと。保証会社さんと本人と自分と三者で話し合って、滞納した家賃は少しずつでも返してもらえればいいですよ、と交渉したこともあります。

板野：そんなことまで……。被後見人さんたちは、私たちが金銭管理にも関わっているので家賃が払えなくなる、ということはほとんどありません。何に困るかと言うと、やっぱり近隣住民の方とのトラブルなんです。

竹内さんは事情を受け止めてくれて、他の入居者さんにも丁寧に説明していただけますよね。福祉畑の私たちが言うよりも、一般市民の竹内さんがお話ししたほうが説得力があるのだなあと感じます。

竹内：確かに他の入居者さんの理解をどう得るかというのは難しい問題ではあります。障害者と接したことがないという方にはとっては、受け入れがたいと感じられることもあるでしょうし。説明会とか交流会をするというのもいいかもしれないですね。今は「隣は何をする人ぞ」というか、すぐそばに住んでいても誰だか知らないということばかりですから。

でも、障害者の人が問題を起こしてしまうこともあれば、被害者になってしまうこともありますよね。良くない人に付きまとわれたり、だまされたりしてお金を取られてしまうとか。そんな時、やっぱりセンターさんのような後見人がいてくれることが助けになるのではないですか

板野：認知症や障害があるから一人暮らしは無理だ、危険だといって施設に住むべきだと最初から決めつけてしまうことには疑問を感じます。

その人が一人暮らしをしてみたいと願うのなら、私たちは精一杯応援したい。福祉サービスをいろいろ使ったりしてみんなで見守れば、苦手なことが多い人でも普通のアパートで一人暮らしができるかもしれない。結果としてうまくいかなくて、グループホームなどに住むことになっても、その人にとってのかけがえのない経験になるはずですから。

竹内：そうやね、何でもやってみないと分からんもんね。一人暮らしを経験することで、施設の職員さんたちや周りの人のありがたみを感じられることもあるだろうしね。

だけど、板野さんたちは大変でしょう。いつトラブルが起こるか分からないから、土日や夜遅い時間にも電話したり、駆けつけてくれたり。

板野：連休前に多めに食べ物やお金をお渡しても、すぐに使ってしまって、結局休み中に「助けて」と呼び出されることも。配食サービスを使った方がいいのかな、土日も訪問してくれるボランティアさんやパートさんにお願いするのはどうかなとか、いつも試行錯誤してい

ます。

竹内：連休といっても、特にお正月なんかはお弁当屋さんも休みだったりするでしょうから難しいですよね。板野さんたちが手を出しすぎてもいかんし、かといって助けがないと立ち行かないこともあるし。人によっても何をどれくらいお手伝いするべきかは違うし、マニュアル通りにすればいいという仕事でもないから、大変だなあと思いますよ。

やっぱり鍵は連携です

板野：とはいえ、まだ頼りになる大家さんは少なくて。高齢者や障害者の方の受け入れに、もう少し理解が広がるといいなと思います。

竹内：入居者さんと関わりを持たないで、管理会社に任せっぱなしという大家さんも増えましたからね。

　そもそも大家が高齢者や障害者の方との付き合い方を知らないのではないかな。さっき言ったような見守りのサービスや、センターさんのような後見人がついていると知ればずいぶん安心できるはずなんです。いろんなサービスを使って、このように管理すれば不安なく入居してもらえますよと、みんなに知ってもらうことが必要だと思います。

　うちは生活保護を利用している入居者さんも多いから、東海市役所にはしょっちゅう相談に行きます。どうしてもお金を使いすぎてしまうという人は、代理納付といって、家賃を生活保護費から直接うちに支払うようにしてもらったりとかね。電気代を払えなくて電気も止められてしまった方は、私が電気代を立て替えて、家賃と一緒に保護費から払ってもらうことにする、という手続きをしたこともあります。

板野：なんだか、竹内さんが後見人みたいですね。（笑）

竹内：やっぱり連携が鍵ですよ。大家だけがいくら頑張っても難しい。理解のある市役所の方や、センターさんや、いろんな福祉サービスの人がいてくれるからできるんです。

　板野さんにはすごく褒めていただきましたけれど、本当に何か特別なことをしているという意識はないんです。どうやって入居者さんに喜んでもらおうかと考えて、できることをしているだけ。それで長く住んでもらえるなら、うちにとっても大きなメリットですから。